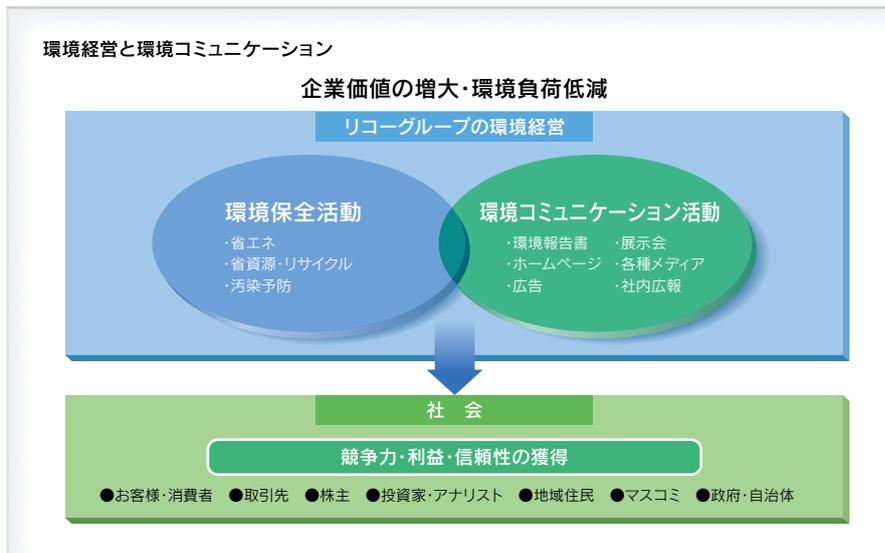


真摯な姿勢でコミュニケーションを図り、
環境保全活動の環を広げていきます。

社会から存続を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を広げていきます。



コミュニケーション活動

環境ホームページの公開

《リコーグループ/グローバル》

リコーの環境ホームページは、グリーン購入法対応製品や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作されています。また、子ども向けページECO TODAYの「テンベル・タツルストーリー」では、メキシコ、中国、マレーシアや日本での森林生態系保全活動の内容をやさしく解説しています。クイズやゲーム形式で環境問題について学ぶこともできます。英語版ホームページも開設されており、各国の関連会社にもリンクされています。



<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday/>

環境広告の実施

《リコー/グローバル》

リコーの環境広告では、リコーの環境経営のコンセプトを、実際の活動事例に基づいてお伝えするようにしています。2005年度は、温暖化をモチーフにしたリコーの環境広告“桜”、“舞子”、“雪景色”の3部作に対して、社団法人広告主協会(JAA)主催の2005「第45回消費者のためになった広告コンクール」雑誌部門で金賞が贈られました。環境広告は、日本だけでなく海外でも実施しています。

<http://www.ricoh.co.jp/advertisement/magazine/other.html>



(桜)



(舞子)



(雪景色)

展示会への出展

《リコーグループ/日本》

2005年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会・エコプロダクツ2005に出展しました。リコーの出展テーマは「環境経営でビジネスに活力を」で、省エネモードからの復帰時間10秒の高速デジタル複合機や、植物由来プラスチックを搭載した複写機、何度でも書き換え可能なリライタブルメディアなど、最新の環境技術と全員参加による環境経営実現に向けた取り組みを紹介しました。また、環境ボランティア活動の際に発生した間伐材を利用したアートクラフトコーナーなど、来場者参加型のイベントも開催し、環境保全の環を広げました。



リコーブースの様子

環境経営報告書の発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2002年7月に発行した2002年版からはタイトルを「環境経営報告書」と改め、リコーグループの環境経営の考え方や実績を開示しています。さらに2004年度からは、サステナビリティレポートとして、環境経営報告書、社会的

報告書の発行時期と発行部数

	発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版 1999.1	26,200	30P
	英語版 1999.1	500	
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版 1999.9	51,300	32P
	英語版 1999.9	8,375	
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版 2000.9	45,950	60P
	英語版 2000.12	6,800	
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版 2001.9	25,950	74P
	英語版 2001.12	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版 2002.7	21,315	84P
	英語版 2002.9	6,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2003	日本語版 2003.6	21,770	84P
	英語版 2003.9	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2004	日本語版 2004.6	18,790	84P
	英語版 2004.9	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2005	日本語版 2005.6 <small>(2005年4月1日現在)</small>	17,695	84P
	英語版 2005.9	7,000	

責任経営報告書、アニュアル・レポートの3つの報告書を6月に発行しています。第9回環境コミュニケーション大賞では、環境経営報告書が環境報告優秀賞を受賞しました。リコーのサステナビリティレポートは、ホームページで請求することができます*。

* <http://www.ricoh.co.jp/about/request/index.html>

サイトレポートの発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段としてサイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン*」を作成し、グループ内で活用しています。2005年度は、新たに秦野事業所、リコーエレクトロニクス、佐賀リコーが発行しました。リコー福井事業所は、第9回環境報告書賞ではサイトレポート継続優秀賞を、第9回環境コミュニケーション大賞では環境報告優秀賞を受賞しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

子どもたちへの啓発活動

「リコー持続可能発展賞」受賞のアメリカの高校生2名が来日

《リコーコーポレーション/アメリカ》

「リコー持続可能発展賞 (RSDA)」最優秀賞を受賞したアメリカの高校生、タイラー・グレン・ライオンさんとダニエル・リース・ウィネガーさんが報奨旅行で7月7日に来日しました。RSDAは、今年で56回目を迎える45カ国、1,000万人以上の高校生を対象にした世界最大規模の科学研究コンテスト「Intel International Science & Engineering Fair (ISEF)」にスポンサーであるリコーコーポレーションが新たに創設した賞で、環境技術研究の優れた成果に対して授与されます。2人の高校生は、7月8～9日、「愛・地球博」を見学。その後、京都見学、小池環境大臣への表敬訪問などを行い、14日にはリコー御殿場事業所および中央研究所の見学に訪れました。リコーからは、デジタル複合機やレーザープリンターの生産工程や独自の省エネルギー技術「HYBRID-QSU」などの説明が行われ、2人からも研究テーマの「ペルチエ効果活用によりフロンガスを排出しないカーエアコン」のプレゼンテーションをいただくなど、互いの技術や研究についての交流が行われました。

小中学校の環境活動の拡大をサポート

《リコー/日本》

リコーは、サンケイ新聞写真ニュースセンター主催の「学校自慢エコ大賞」に協賛しました。この賞は、全国の小中学校での環境保全活動の普及促進を目的にしたものです。2006年2月に第2回の表彰が行われました。リコーは、子どもたちに環境問題の重要性を訴え、一人ひとりの活動が地球環境を救うことにつながることを認識してもらうという趣旨に賛同し、協賛しています。

リコー、「環境コミュニケーションに優れた企業」として大学生から表彰

リコーは、2005年12月、「環境コミュニケーションに最も優れた企業」として神戸大学経済学部の学生の方々から表彰を受けました。彼らは日経STOCKリーグ*に参加しており、株式投資ポートフォリオの作成にあたり、「環境コミュニケーション」をテーマに企業を選定。Web、広告、環境保全活動の点から独自の基準で企業を評価したところ、リコーが各部門で高い得点を獲得。Webではトップページから環境ページへのアクセスしやすさとわかりやすさが、広告では日経エコロジーに掲載中の広告の好感度・共感性が評価されました。投資テーマに「環境コミュニケーション」を選んだ理由は、環境への取り組みは当然重要なが、もはや企業からの一方的な発信だけでは評価されない時代になっており、「対話」「コミュニケーション」を通じた相互理解を達成することが重要と考えたからとのことでした。

* 日経STOCKリーグ

日経新聞社主催の中・高・大学生を対象にした株式学習コンテスト。自分の投資テーマにしたがって銘柄を選定するポートフォリオ学習などを通じ、生きた経済を学ぶことを目的としている。

